

富士山で雪崩発生！

富士山スラッシュ雪崩災害防止のために



雪氷防災研究センター 研究員 上石 勲

はじめに

・「富士山で雪崩発生」・意外と思われる方も多いかもしれません。実は昨年(2006年)の3月には富士山で「スラッシュ雪崩」という通常と違った種類の雪崩が発生しました。防災科研は、地元行政機関と連携して富士山スラッシュ雪崩についての資料を整理するとともに、これからの対策について検討を始めました。

2007年3月15日発生のスラッシュ雪崩

スラッシュ雪崩とは大量の水を含んだ雪が流動する現象で、特に富士山で発生するスラッシュ雪崩は、雪代とも呼ばれ、富士山を覆っているスコリア火山礫も混じって流下します。この種の雪崩は古文書にもその発生が記録されており、現在の静岡県富士宮市や山梨県富士吉田市付近まで流下し大きな被害を与えていたようです。1972年には登山者24名が死亡する事故も起きています。

昨年3月25日、富士山南西斜面でスラッシュ雪崩が発生し、人的被害は無かったものの、富士宮口富士スカイライン5合目の建物や道路に大きな被害を与えました(写真1)。



写真1 富士宮口五合目レストハウスの被災状況

2007富士山スラッシュ雪崩フォーラム

防災科研が事務局となって2007年10月11・12日に山梨県河口湖町で「2007富士山スラッシュ雪崩フォーラム」を開催しました。地元静岡県、山梨県の方や国内のスラッシュ雪崩研究者約50名が一同に介し、それぞれの調査研究成果発表と現地調査を行い、情報の共有化などが重要であるなど貴重な意見交換がなされました。



写真2 富士山スラッシュ雪崩フォーラム現地調査

スラッシュ雪崩災害の軽減のために… 地域の望む研究成果を

雪氷防災研究センターでは、気象観測装置を静岡県と協力して五合目付近に設置しました。この観測情報は、リアルタイムで静岡県などの関係機関に配信する予定です。また、防災科研で設置している高感度地震計で今回のスラッシュ雪崩が記録されました。スラッシュ雪崩は大規模になると構造物だけでは完全に止めることができません。このようなセンサーを駆使したスラッシュ雪崩の監視や、発生予測、ハザードマップなどを研究成果として、少しでも地域の安全に役立つよう努力しようと考えております。